

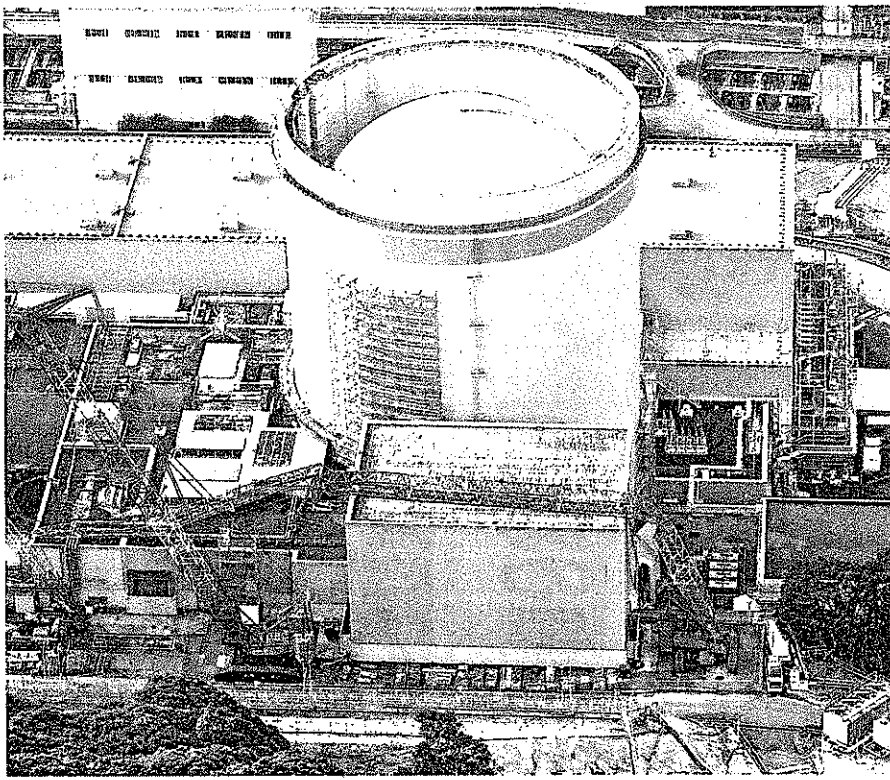
高浜原発クレーン倒壊

燃料建屋の屋根損傷

強風原因か

二十日午後九時五十分ごろ、高浜町の関西電力高浜原発で、1、2号機の安全対策工事のため設置されていた大型クレーン一台が倒れ、2号機の使用済み燃料プールがある「燃料取扱建屋」や原子炉の冷却機器がある「原子炉補助建屋」の屋根が一部壊れた。強風が原因とみられ、関西電力によると、周辺環境に影響はな

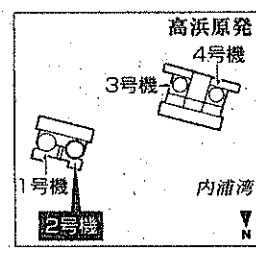
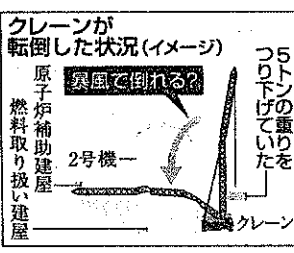
く、けが人もいない。■関連⑥面 (中崎裕、山谷征裕)



高浜原発2号機の燃料取扱建屋(手前中央)と原子炉補助建屋(同左)の上に倒れた大型クレーン。21日午前9時45分、高浜町で(左)本社へ「おしよ」から、長塚博樹撮影

1、2号機は運転開始から四十年を超える原発。クレーンはアーム部分の長さが百十三メートルで、原子炉格納容器の上部にコンクリート製のドーム屋根を追加で設置する工事のため、昨年十二月に2号機の建屋脇に設置された。当時、クレーンを使った作業は行われておらず、先端から地表に垂らされた重りで固定されていた。

事故当時、暴風警報が出ており、原発に近い小浜市では、同時に二五・八メートルの最大瞬間風速を観測していた。関西電力の担当者は陳謝



した上、「今後、クレーンの維持方法を再検討したい」と話した。中央制御室にいた当直員が大きな音を聞いて外を確認したところ、クレーンが燃料取扱建屋の屋根にもたれかかるように倒れていた。

た。建屋内部を確認した結果、天井からの落下物はなく、冷却機能にも異常はなかったという。使用済み燃料プールには三百五十九体の核燃料が保管されていた。1、2号機は昨年四月、

安全対策工事をすれば福島第一原発事故を踏まえた新規制基準に適合すると原子力規制委員会が判断。同年六月には全国の老朽原発で初めて四十年超の運転を認可した。工事は二〇二〇年に完了を予定している。

1/22 早稲

原発の強風対策 疑問



謝罪する高浜発電所の高島昌和運営統括長ら＝21日午前、高浜町の高浜原発で

「問題ないと判断」

クレーン倒壊 関電が謝罪

二十日深夜から二十一日未明にかけ、県内は寒気を伴った低気圧が接近したため、各地で暴風雨に見舞われた。高浜原発（高浜町）では強風の影響で大型クレーンが倒れた。福井地方気象台は奥越を除く県内全域に暴風警報を出し、最大瞬間風速は坂井市三国で一月では観測史上最大の三二・九㍎、福井でも二八・六㍎を記録。各地で倉庫や小屋の屋根がはがれ、樹木が倒壊した。その影響で道路の通行止めや停電もあった。気象台は二十一日も県内各地で風が強くなるとみている。＝〇面参照

関西電力高浜原発（高浜町）で二十日夜にあった大型クレーンの転倒事故。長大なアーム部分が強風におおられ、倒れたとみられ、一夜明けた二十一日、関電が公開した現場では、そのアーム部分が建屋に沿うように無残な姿をさらしていた。安全対策工事のためのクレーンが原発施設を損傷させたことに県民から関電の安全管理への疑問と、事故の根本的な検証、確実な対応を求める声も上がる。

高さ百㍎を超え、重さ二百七十㍎の大型クレーンはバランスを崩し、高さ約三十㍎の「燃料取扱建屋」の屋上部分に接触。アーム部分は途中でぐにやりと折れていた。その先のアームは、燃料取扱建屋を通り越

し、原子炉冷却機器のある原子炉補助建屋の先まで達していた。燃料取扱建屋の屋根は厚さ十五㍎のコンクリート製。下には核燃料が貯蔵されている。

航空機テロなどを念頭に進めた補強工事が、その工事の重機で自ら原発施設を傷める皮肉な結果を招いたのはなぜか。事故後の会見で、報道陣からこんな質問が相次いだ。

関西電力高浜発電所の高島昌和運営統括長らは頭を下げて「心配をかけ、申し訳ない」と陳謝。風による転倒については「一部検討が至らなかったかもしれない」と述べるとどめた。

関電によると、転倒防止のために、伸ばしたアーム部分の先からは五㍎の重りが地表まで垂らされていた。元請けの大成建設やクレーンメーカーの調査で、この重りで毎秒四㍎の風に耐えられると評価されていた。

二十日夜は暴風警報が出ていたが、関電の担当者には「問題ないと判断して、特に対策は取っていないかった」と説明。事故を受け、別の三台のクレーンは二つ折りの状態に戻した。二つ折りにすると「先端が接地するのでより安全」（担当者）だという。

それなら、なぜ最初からこの安全策を取らなかったのか。会見で、関電側はクレーンを伸ばした状態のままにしたのは誰の判断だったのかを報道陣に問われ「分からない」。下請けとの連絡・調整が十分だったのかなど徹底した原因究明と再発防止策を示すことが求められる。

高浜原発近くの音海地区で遊漁船を運営し、1、2号機の運転延長に反対している児玉巧さん（仮名）は「あまりにも急ぎすぎ。もう少し慎重に工事すべきだ」と話している。

（中崎裕、山谷征裕）

規制庁や県が職員派遣

関西電力高浜原発のクレーン転倒事故を受け、原子力規制庁と県原子力安全対策課、高浜町は現地へ職員を派遣した。

関電は、当直員が事故現

場を確認後の二十日午後十一時から、町と規制庁、県の順に事故発生を報告。規制庁などは直ちに職員を現地へ向かわせ、未明に事故現場を確認した。

1/22
母福